

令和4年度 第8回金谷区地域協議会

次 第

日時：令和4年10月20日(木)午後6時～

会場：福祉交流プラザ 第1会議室

(全体：1時間程度を予定)

1 開 会

2 議題等の確認

3 報告

(1) 諮問事項 新市建設計画の変更について (答申)

4 議題

(1) 金谷区の地域活性化について

5 その他

6 事務連絡

7 閉 会

令和4年9月29日

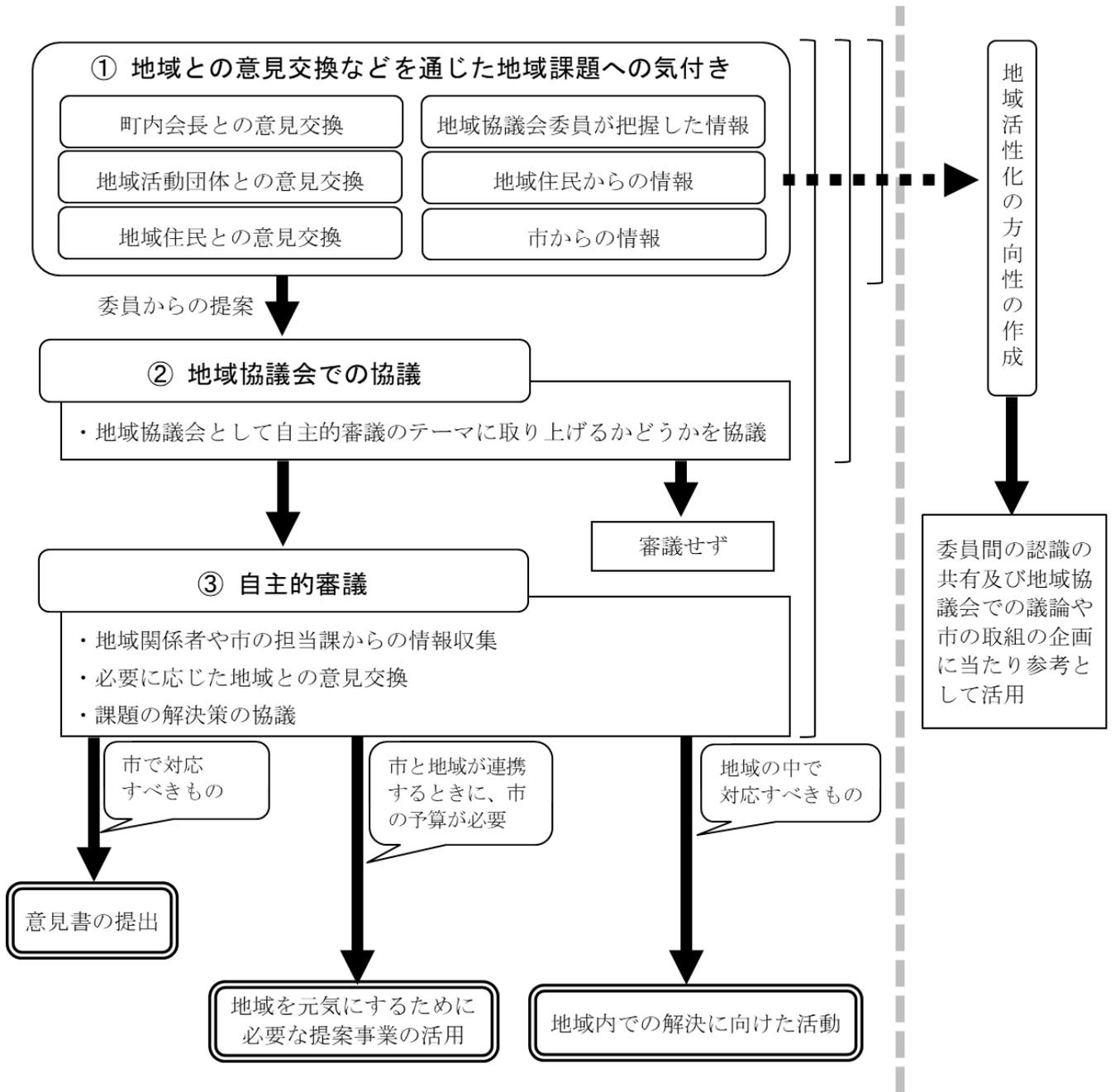
上越市長 中川 幹太 様

金谷区地域協議会
会長 村田 敏昭

新市建設計画の変更について（答申）

令和4年8月9日付け上企第29045-3号で諮問のあった、諮問第29号：新市建設計画の変更について、地域住民の生活に支障はないものと認めます。

令和4年度の自主的審議の流れ



各地域協議会による「地域活性化の方向性」の作成について（お願い）

1 「地域活性化の方向性」の作成目的

地域協議会による地域の活力向上に向けた議論を進めるに当たり、委員間の認識の共有はもとより、地域協議会と市の認識の共有を図るとともに、市の取組の企画の参考としたいことから、地域において特に重視したいこと、大切にしたいことを、各地域協議会において「地域活性化の方向性」として作成するもの

- ◎用途 (1)自主的審議、元気事業、意見書、地域への働きかけの取組における、各地域協議会及び総合事務所、まちづくりセンターの共通認識
- (2)市の取組の企画の参考とする考え方
- ◎作成主体 各地域協議会

2 「地域活性化の方向性」の作成の着手時期

各地域協議会において、令和4年度に地域活性化の方向性の作成を始めるようお願いします。

3 「地域活性化の方向性」の内容

- ・幅広い分野（地域資源・産業・観光・農業・自然・風土等）の中から、各区の個性や特性をいかすことで、地域の活性化につなげるもの。
 - ・地域の課題解消や現在の状態をさらに良くすることで、地域の活性化につながるもの。
 - ・方向性の構成要素は、おおむね1～5つ程度で作成願います。
- ※全区で作成し、市民からも見ていただくため、一定の分かりやすさを必要とすることから、構成、書きぶりについて、下記の基本形に沿って作成願います。

【基本形】 豊富な雪 ≪〇〇区の地域活性化に向けて≫

〇〇区の□□□□という個性（強み、特性）をいかして、△△△△△△ます。

○構成要素	暮らす人や訪れる人の地域への愛着を育み
・	・雪のある暮らしの魅力の発信
・	・雪をいかした企画の実施
・	・雪室を活用した特産品の企画
・	・冬期間の安心安全な暮らしの推進

4 「地域活性化の方向性」の作成後の取扱い

- (1) 各地域協議会の自主的審議のテーマの選定、元気事業や意見書の内容等を制限するものとはしません。
- (2) 他の団体等が作成した既存の地域の計画等（まちづくり計画、農業振興に関する計画等）を妨げるものとはしません。※協力して取り組むことで互いが良い方向に進める事項については、積極的な連携を考えていくことが想定されます。
- (3) 地域協議会による作成とするため、市全体の方針や考え方と異なる方向性（構成要素含む）の作成も可能ですが、そのような内容とする場合は、市の一体性の確保や公益性との間で整合を図ることができないことから、その方向性に基づく取組を市が行うことは困難です。

5 「地域活性化の方向性」の作成手順 ※令和4年度に次の①②を開始

- ①各事務局から地域協議会へ作成を依頼
- ②各地域協議会で作成（例：2～4回（アイデア出し1～2回、話し合い1～2回、まとめ1回など）。会議の後半の時間などを使って）
- ③完成

金谷区の地域活性化に結び付くと考えられるアイデア、今後の方向性（案）

委員A

金谷区のシンボルとも言える『金谷山』を中心とした地域活性化

ポイント：道の駅を整備 それを核とした 周辺既設施設の更なる活性化

金谷地区公民館との連携

ヨーデル金谷との連携

BMX場・金谷山公園とのつながり

周辺の生徒・学生との連携（作物販売や職業体験）

農家産直市場

子育て・こども広場 ☆子育てママが運営STAFF

ふるさと納税

○上越市内 各区が独自のふるさと納税品を考える。

単に商品を集める事ではなく、地域の付加価値を探る契機ともなる。

○母校支援

→農家産直市場に力を入れることに賛成である。（石川委員）

→道の駅は公的な支援をたくさん得られる。金谷山公園など一つで決着がつくものではなく、公園、ボブスレー、スキー場、ヨーデル金谷、新しい公民館、BMX場も全部有機的に結合させていかなければならない。

高橋委員のクラフトビールというアイデアも含め、我々の一番の懸案事項である金谷山周辺の活性化について、委員皆さんのアイデアを結合して行政に提案するのも面白い気がする。（小林委員）

【今後の方向性（案）】

- ・金谷山周辺の活性化について、自主的審議事項とするか検討する。
 - 自主的審議事項とした場合、活性化のアイデアをまとめて市への意見書の提出を目指すことができる。また、ヨーデル金谷や施設経営管理室等との意見交換をしながら協議を進めることも考えられる。
- ・令和6年度予算に向けて地域独自の予算の提案を検討する。

委員B

○ひとくちに金谷地区といっても平素の生活実態が分かれており、ある事業で全体に元気が出るとは限らない。

○昨年までの事業の中には、市の行政が本来、直接やる事業が二、三あった。

○事業の中には、市が発案して、関係する地域の意見を聞いて地域団体の意見書を三者で検討した方がよいのがあった。

委員C

金谷区の活性化について

(箇条書きですが思いつくままです。)

○世の中、何となく閉塞感が横たわっています。

※コロナ禍、戦争・内戦、温暖化、物価高、高齢化、少子化、気候変動、海洋汚染に原発ゴミ、食糧問題にエネルギー不安、格差社会、健康不安等々

○こんな中で何が一番大切か…、国の政策や方向性は一番ですが、そこはその筋に任せることにして、私たちにできることは…と考えます。

○身の回りのこと、地域の問題点。私の周りでは（高齢化の問題）が一番、通院、介護、認知、孤立化等々。

○でも、よく考えれば（少子化＝若者の問題）が一番のように思います。

○観光も安心安全も大切ですが、その基となるのは「人」です。

○人への投資が何より肝心かと思います。特に（若者と子ども）だと思います。

○「若者と子どもたちが安心して暮らせる環境づくり」に力を入れるべきかと。

○何より「若者が集まれる場」づくり。コロナ禍で、若い人が触れ合う機会も、顔さえ満足に見られない環境はかわいそう、何とかありませんか？このままじゃあと十年は続きそう！

○それから「食べていける環境」づくり。もちろん「職業の確保」が前提ですが。パンデミックによる都市封鎖下、ウクライナ戦下、要は食べ物と、冷暖房の確保。燃料の高騰のみならず、お金を出しても買えないかも…という不安。今、ギリギリのところで生活している若者にとっては死活問題。

(結論からの提案です。)

・上越市は、中山間地の農地が山ほど欠伸しています。ここの活用を提案します。

・先日、中ノ俣では、県道（畑のそば）と家の庭先にクマを見た人がおります。鹿にカモシカ、猪、タヌキ、ハクビシンは常態化。住宅の周り、村の周りは草やぶ状態です。

・若者（に限らず）に空き家をシェアハウスの的に提供し、空き地を耕して食糧自給と、薪ストーブ中心の燃料自給（放置された山林や、手入れのできてない山が山ほど！）に貢献してもらえないでしょうか。もちろん基礎的な支援は必要ですが、若者の交流の場もでき、鳥獣被害対策にもなります。

○世の中、何もかもデジタル社会ですが、暮らしの基本はアナログ。

○いずれ、（遠くない将来）食料と燃料は大問題になるでしょう。そういう意識を醸成してもらうためにも、先駆的な取組になるのではと考えます。

○金谷区から発信できたら嬉しいです！

→金谷区のいいところは、自然が非常に身近なところにある点。住宅地のすぐ近くにふるさと道など散策できる素敵な場所がある。

地域活動支援事業でも滝寺など地域の方が一生懸命整備している場所があり、

そういうものを広げ、みんなが自然を楽しめるようになったらいいなと思う。
(平良木委員)

【今後の方向性（案）】

- ・令和6年度予算に向けて地域独自の予算の提案を検討する。

委員D

- 1 金谷区地域協議会として、これから何をすべきかを考えたとき、「金谷区観光・史跡探訪の構築」を検討課題としたらいかがでしょうか。
 - 2 金谷区の重要観光拠点として
 - (1) 正善寺ダム周辺（アジサイロード等含む）
 - ・正善寺アジサイロードの通年環境整備経費
 - (2) 金谷山公園周辺（スキー発祥記念館等含む）
 - ・会津墓地の通年環境整備費経費
 - (3) 儀明川ダム周辺（これからの環境整備計画等）
 - ・儀明川ダムの景観・誘致等の未来計画図の構築
 - (4) 南葉高原周辺（観光客誘致等に関する案件）
 - ・南葉高原アクセス道路等の整備費
- * 観光に係る維持管理通年経費の算出並び予算化を図るとともに、観光ルートの構築を検討する。
- 3 金谷区の史跡・自然の維持管理並び調査
 - (1) 金谷北部地区（滝寺不動尊・滝寺砦等）
 - (2) 金谷区中部地区（会津墓地・医王寺等）
 - (3) 金谷区北部地区（旧後谷線整備・灰塚国蔵菩薩像等）
- * 金谷区に存在する「上越市文化財」等の洗い出しと維持管理通年経費の算出並び予算化を図るとともに、観光ルートの構築を検討する。
- 4 その他の問題点
 - (1) 上越市における「地域協議会」の立場（権限）の明確化
 - (2) 金谷区における各種団体との連携方法（運営団体、維持管理団体、町内会長、市議会議員等）
 - (3) 金谷区地域協議会で活用できる調査費や日当等の予算獲得。
- これらの（2～3）の作業を同時進行する場合は、現組織体制では困難であることは顕著である。したがって、全く別組織として再出発するか長期間にわたって段階的に遂行するかである。

委員E

金谷地区公民館の地域協議会の取組について

金谷地区公民館は、金谷区全体に関わる大きな問題です。付帯事項等が反映されるように振興協議会、町内会長会の組織に金谷区地域協議会の代表を送り、市側と

の交渉を一本化すべきと考えます。

委員F

レストランヨーデル金谷の近傍にクラフトビール工房を！

金谷区は、「スキー発祥の地」金谷山を中心に、歴史と自然豊かな地域です。県営グラウンドが、弥彦に続き二番目に建設された場所であるほか、山麓には国宝薬師如来坐像が安置されている薬師堂のある医王寺（平安末期 1087 年建立）や、明治の自由民権運動の足跡を記す「高田事件碑」、戊辰戦争での幕軍、官軍双方の墓所などがあり、歴史に触れる格好の場所ともなっています。

その金谷山麓には、食をテーマとした事業を通して、市民の財産ともいえる金谷山の緑豊かな自然を活用し、地域農林水産業の活性化を図ろうと約 30 年前から「レストランヨーデル金谷」が営業しています。ヨーデル金谷は、上越の食材を使った本格フレンチからカジュアルな洋食まで幅広いメニューとゆっくりと過ごせる空間づくりで、金谷地域の魅力を発信しつづけています。

さて、このヨーデル金谷の西側には、地元の良質な水を活用し職人が手作りするビールを生産する「クラフトビール工房」を建設する計画が、かつてありました。この計画は、発案から順調に推進され、基本設計も終わり工事発注のための入札が行われる寸前までこぎつけましたが、計画を推進していた市長が選挙で交代したため、夢と潰えさりました。

しかし、酒造りでは日本有数の伝統を持つこの地では、クラフトビール工房の建設は、地域振興に大きな力を発揮することは間違いありません。また、レストランとの連携で、生産したビールを大いに広めることも可能です。

一方、上越市は、市が運営する観光施設等で赤字になっている施設を廃止あるいは売却する方向のようであり、ヨーデル金谷も 3 年後には存廃を含めた検討対処施設になっていると聞きます。しかし、ヨーデル金谷は、地域にとって欠くことのできない施設であり、単純な経済問題のみでなくしてはなりません。また、市民の憩いの場所は、市が運営し、財源を確保して市民サービスを行うことが行政の責務であり、住みやすい町づくりにつながります。

そこで、クラフトビール工房の建設でレストラン経営をより活性化させ、双方の相乗効果で地域の活性化を期することが可能であることから、クラフトビール工房の建設を希望します。

→寺町 3 丁目にクラフトビール工房がオープンする。こことコラボして、何か作って、オリジナルのコンテストで作っていただくなど、その施設を有効活用して、その上で次のステップを目指すのも面白いと思う。（小林委員）

委員G

金谷区には南葉山、金谷山があり、自然にあふれる地区なので、それを生かした事業ができるといいのではないかと思います。具体的なアイデアはなかなか出ない

のですが（すみません）。

防災対策チームが立ち上がっていることも考えて、各町内での避難訓練に今までとは違うことを取り入れるとか、小さな集まりのときについでに防災の話をするとか、年間通して防災に触れる機会があるといいと思います。

委員 H

地域活動支援事業に採択されているものをそのまま継続することも大切だが、発展させていくことも必要。一つ一つの活動自体は既に素晴らしいものなので、複数の団体が連携していくことができれば活動に広がりが出てさらに発展していくのではないかと思う。

委員 I

金谷山公園や区内にある自然公園の利用促進

近隣、飲食店との提携による手ぶらで行けるピクニックやBBQプラン
→ヨーデル金谷などの利用促進にもつながる。

→ヨーデル金谷のメニューは主に休日のランチ向けだが、金谷山で遊ぶ人たちに商品を届けるようなやり方もありかと思う。

ここでこういうことをしようという、みんなの色々なアイデアを広げ、こういう手があるんじゃないか、相手がいるんじゃないかというところを煮詰めていった方がよいのではないか。（小林委員）

【今後の方向性（案）】

- ・アイデア出しをし、実現可能な取組や実施する団体を検討する。

【基本形】

《金谷区の地域活性化に向けて》

金谷区の_____という個性（強み、特性）をいかして、
_____ます。

○構成要素

・
・
・
・
・

上記の様式の空欄にご記入いただき、11月2日（水）までにFAX、メールなどで南部まちづくりセンターへご提出いただきますようお願いします。

可能な範囲でご記入ください。キーワードなどでも構いません。空欄があっても結構です。

委員氏名	
------	--

【提出先】

南部まちづくりセンター

住所：上越市寺町2丁目20番1号（上越市福祉交流プラザ3F）

電話：025-522-8831

FAX：025-522-8832

e-mail：nanbu-machi@city.joetsu.lg.jp